

花美蔵通信 Vol.4

はなみくらつうしん

白扇酒造株式会社

事業本部 〒505-0303 岐阜県加茂郡八百津町伊岐津志208-3
 蔵元 〒509-0304 岐阜県加茂郡川辺町中川辺28番地
 URL <http://www.hakusenshuzou.jp/>
 E-mail info@hakusenshuzou.jp

こんにちは加藤祐基です。日増しに寒さがつのってきましたが、お元気で過ごしてでしょうか。一年が経つのは早いですね。もう酒造りの時期がやってきました。現在、当社では味醂仕込みも終わり、清酒製造が始まりました。今年もよいお酒ができますようにと願いを込めてお祓いをしました。お祓いをしたことにより改めて、造りだけでなく日本酒の歴史に興味を持ちました。私なりに勉強した事を皆様に少しご紹介したいと思っております。年末に近づくにつれ、準備などでご多忙のことと存じますが健康や事故にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。

アメブロやっています!
<http://ameblo.jp/hanamikura/>



白扇酒造株式会社
加藤祐基

花美蔵子が学ぶ

日本酒と神様の関係

お祓いを通して「日本酒と神様の繋がりとは？」と疑問に思い、調べてみることにしました。



古くから神様はお酒が好きと言われています。「お神酒(ミキ)あがらぬカミ(神)はなし」と言うくらい日本の神様にはお酒が不可欠です。昔は大変お米が貴重な食材でした。お米だけでつくった物の中で最も手間のかかる工程を経た日本酒は最上の御馳走とされていました。よって、これを神様にお供えた訳です。

お酒造りの神様で有名なのは、
 おおみわじんじや おもものぬしのおおかみ まつのおたいしや おおやまのくのみ
大神神社(奈良県)の物主大神と**松尾大社(京都府)の大山咋神**の二神。



物主大神は蛇神、水神または雷神としての性格を持ち、稲作豊穰、疫病除去、面癩造等の神として篤い信仰を集めています。

大山咋神は国土建設に貢献した酒造りの上手な神様で、現在に至るまで全国の酒造業者の信仰が篤く、酒樽がたぐさん奉納されています。

日本では水も供えますが日本酒も供えます。水は神様の飲み物として、日本酒は神様への贈り物としていたそうです。日本は水が豊かで、どこに行っても綺麗な飲み水が手に入ります。その水を神様に供えて終わりというのは失礼にあたることとされていたみたいです。海外は水が豊かではないので、水が最高のもので聖水として使用されているようです。日本で神様にお酒を供える理由は、人間でいう贈答品ですね。献上酒とありますがこれも神様に捧げるお酒のことで、大切な人に最高のプレゼントをする感覚に似ていますね。しかし、直会(なほらい)と言って後で皆で飲むんですよ。

日本の神々の名前には「穂」や「火(ほ)」が含まれていることが多く、お米に関する神様がたくさんいます。稲は命の根と言われ、稲作文化が根付く日本の家徴。古来より春には五穀豊穰を願い、秋には感謝をしてきました。そのお供えとして欠かせないのが、荒稲(あらしね)・和稲(にしね)・お酒。稲と水からお酒を造り、神様にお供えてきたのです。これらのことから、神様とお酒の関係は非常に深く、日本の神様にとって特別なものであることが分かりますね。

日本の土地で収穫された米で醸される日本酒が、国酒と呼ばれる理由も納得できます。現在は残念ながら消費量も減りつつありますが、神事に使用するだけでなく、日本の食卓に身近な存在であれたらと願っています。

この度、皆様にたくさんの幸が訪れますようにと願いを込めて、木桶仕込みのお酒をお祓いしました。高山で縁起物として知られる絵馬のデザインですので、ぜひ手にとってみてください。

